

休景たいむ 「いっぷく」時間の一枚



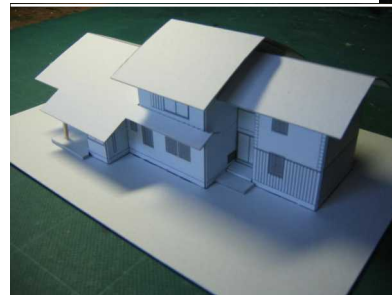
城原八幡社。樹齢数百年の大木から舞い落ちる銀杏の葉っぱが、屋根や境内を黄金色に染めて行きます。
そのあまりの美しさに屋根掃除の手を止めてパチリ！
この銀杏。枝の途中に根付いたケヤキがそのまま生えている、ちょっと変わった樹です。
初詣のおまけに銘木(迷木?)見物でもいかが？

川野組 ING (現在進行形)

H邸(竹田)

お施主さんの“お父様”縁の品、思い出の品を飾って楽しむ“私のための展示スペース”を備えた住まいです。

完成をお楽しみに。



一建落着 ~ 追伸 ~



K邸(今市)

待望の薪ストーブがリビングに座りました。

「お部屋が直ぐに暖かくなって良いわ。

でも、主人は大変みたい。」

とは、奥様の談。

見れば、庭に沢山の薪が。

御主人、“薪割り”がんばって！

発行人 川野和男
編集 川野組内
家造り匠の会

☎ 0974-62-2416

✉ tkk22@theia.ocn.ne.jp

🌐 <http://www6.ocn.ne.jp/~k-kawano>



なごみ

『再生』

広瀬神社の前を左に入ると 図書館から ^{あぶみ} 鑑返しへと続く

その途中 能舞台の向かいに 古びた木造がある

少し緩やかな坂を上り 門をくぐる

椿が咲いている

かつての幡本屋敷に 新たな命が吹き込まれようとしている

型染めを追い求めてきた 佐藤武郎先生の美術館として

やがて

このまちの奥深さと厚みを 物語る一つになる



旬の版画

石段を登っていくと
右手の岩に この文字が

喝

政治にも 世間にも
そして 自分にも

ちょっと起になるお話 特集『秋野華』



大分市に、そば屋『秋野華』(来春オープン)が完成しました。場所は、三佐(鶴崎)。ここは、かつて岡藩の港があった辺り。竹田との浅からぬ縁を感じます。そこで今号の「ちょっと木になるお話」は、みなさんを出来上がったばかりの『秋野華』へオープンに先駆けてご招待致します。



重厚な玄関戸



外観



主、自らが殴りを入れた石畳



玄関内部

戸口の上には『御得意繁盛』と書かれた額が

「そばは、時間が勝負です。会話は楽しんでいただきたいですが、それは食べた後。その代わり、そばを食べた後の時間は、甘いものでも食べながらゆっくりとくつろいでもらえれば幸いです。」



打ち場内部



玄関左手 打ち場入口

材料は、地産地消の意味も込めて豊後高田産のそば粉を使用



テーブル席(4名)



玄関から奥へ

両側に客室
奥は厨房



カウンター席(4名)



厨房

『秋野華』の主、法華津さんは、そば打ちに寄せる思いを語った後、「ちょっと向こうに行きましょう」と隣にある自宅へ案内し、一枚の屏風絵を広げて見せてくれました。



「その家の向こうに樹があるでしょう。そこに岡藩の船泊と宿泊所があったんです。竹田の歴史資料館にもこの屏風絵と同じ写真があると思うんです。三佐と竹田は縁があるんです。今度の店にも古い建具を使ってますけど、自分の以前の家の建具があんな感じだったんです。「店を作るんならあんな感じにしたい」と、それを

再現してくれる大工さん、工務店さんを探しました。大分で何軒か見せて貰ったんですが、ピンと来なくて。諦めかけていた時に新聞で『豊の国木造住宅展』で賞を取った川野組さんの家を見たんです。「ああこれや!」と、その日に直ぐに見に行きました。そこから川野組さんに電話したら、丁度、川野さんだけがいらっやって「話だけでもお伺いしましょう。」から始めて、こういう形になったんです。中途半端には造りたくなかったので、川野組さんとお会いできなかったらおそらくまだ出来てなかったでしょう。

